



雪窓

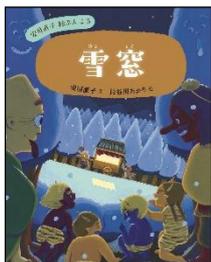
安房直子／文 長谷川あかり／絵

【あすなろ書房】1,650円

山のふもとの村に「雪窓」というおでんの屋台ができました。ある晩、タヌキがやってきておでんを注文します。タヌキは毎晩くるようになり、この店を手伝うようになりました。店主は妻と娘をなくして一人ぼっちだったので、タヌキがきてくれることで寂しさがまぎれました。雪がつもった晩のこと、死んだ娘にそっくりな若い娘がやってきたのですが、手袋を忘れて帰ります。店主が娘を思う気持ちがじんわり伝わるお話。

<選定理由>

優しくどこか不思議なファンタジーの世界。安房直子さんの素晴らしい世界観を、柔らかい絵がさらに読みやすくしてくれています。読み終わった後に、心がほんわか温まります。中学年のうちにぜひ触れてほしいです。



AIロボット、ひと月貸します！

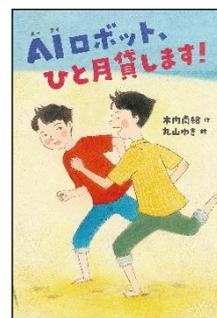
木内南緒／作 丸山ゆき／絵

【岩崎書店】1,320円

我が家にAIロボットがやってきた。名前はイト。ほくにそっくり。そしてほくよりうんと優秀！最初はいろんなことをやってもらえてうれしかったけど、だんだん不安になってきて…。涙と笑いの一か月が過ぎて、その日は来てしまった。心通うはずのないロボットとの確かな心の交流を描いた、胸が熱くなる作品。

<選定理由>

自分そっくりの AI ロボットと主人公が入れ替わり学校に行ったりおつかいをしたり、秘密の生活を1カ月送ります。時には助かり、時には腹が立ち…。最後に二人が心通わせる場面には胸が熱くなります。



ジャージー牛のサンちゃん

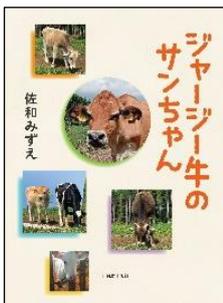
佐和みずえ／作

【新日本出版社】1,540円

ここは大分県にある放牧場の宝牧舎。「ミルクが出なくても、いずれ食肉になろうとも、生きている間は幸せでいてほしい。」その思いで、サラリーマンだった竜馬さんと加奈さんが夫婦ではじめました。その宝牧舎に引き取られたジャージー牛のサンちゃん。肉屋さん、野菜農家、料理人など、色々な人たちがサンちゃんの幸せを考えてくれています。「食べること」や「動物の命」に「ありがとう、って伝えたいお話」です。

<選定理由>

「牛の幸せってなんだろう？」大分県の牧場「宝牧舎」での山地夫妻と牛たちの本当のお話です。動物も人間もみんなが幸せに生きていくために大切なこと、今日から実践できることについても考えさせられる一冊です。



みんな、空をとべる

ジャクリーン・ウッドソン／作

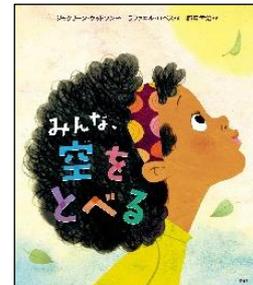
ラファエル・ロペス／絵

都甲幸治／訳 【汐文社】1,980円

その年、わたしたちは空をとべるようになった...わたしたちよりまえにきた人たちのようにじゆうに主人公たちはつらいとき、まわりから受け入れられないとき、はるか先祖の古い知恵を思い、心の中で空をとびます。さまざまなルーツの人が生きるアメリカで、日本で、この本のメッセージが人と人との垣根をとびこえるためのヒントとなるかもしれません。過去に生きた人のことを思い、いまの問題を考えることのできる絵本です。

<選定理由>

国際アンデルセン賞受賞作家ジャクリーン・ウッドソンによる『みんなとちがうきみだけ』からうまれたもう一つの物語。自分のよさを改めて考える強く美しいメッセージに、自分も空を自由に飛べる気持ちになります。



どんなイチゴも、みんなかわいい

葦原かも／作 中田いくみ／絵

【童心社】1,320円

アヤは想像力ゆたかな女の子。ミズクやフクロウの図鑑を見るのが大好きで、自立つことや、女の子っぽくふるまうのは苦手です。そんなアヤの日常に大きな事件はおきないけれど、日々いろいろと考えることがあるのです。小学3年生の女の子の心情をユーモラスに語る3つのエピソードを通して、自分は自分のままでいいのだと理解し、少しずつ成長していく姿が爽やかに描かれます。

<選定理由>

空想の世界に浸ったり、自分自身や友達関係について悩んだりするこの時期に、そっと背中を押してくれる一冊。イチゴ一つひとつによさがあり、一番を決めなくてもよいのではないかと主人公の変化に共感できます。



「はやく」と「ゆっくり」

チャン・ホイチョン／文

シュイ・コワンコワン／絵

一青妙／訳

【光村教育図書】1,540円

ぼくは毎日、目が回るようにいそがしい。パパとママは、いつも「はやく」って言う。でも、おじいちゃんとおばあちゃんは、いつも「ゆっくり」って言う。みんな、「そうしないと たくさんものをなくしてしまうよ」って言うんだ。「はやく」と「ゆっくり」にはさまれて、ぼくは、どうすればいいのかわからない。ある日おじいちゃんが言った。「はやくてもゆっくりでも かまわない。自分のリズムを見つかるんだよ」って。

<選定理由>

「はやくはやく」と急かされて毎日を過ごす子どもたち。「はやく」と「ゆっくり」にはさまれて悩むぼくにおじいちゃんが言った言葉には、大人も救われます。現代社会を生きるみんなに読んでほしい一冊です。

